

工業会推薦の「株式会社 松永牧場（島根県）」が優秀賞を受賞

[平成27年度エコフィードを活用した畜産物生産の優良事列表彰]

平成27年11月13日（金）、公益社団法人中央畜産会が主催する平成27年度エコフィードを活用した畜産物生産の優良事列表彰式（第1回）が、都内千代田区神田のエッサム本社ビル4階「こだまホール」で開催された。これは、中央畜産会が今年度から実施した「エコフィード先進事例普及事業」の一環で、国際化の進展で輸入畜産物との競合が厳しくなることから、エコフィードの生産・利活用の普及促進を進めることを目的としている。

日本飼料工業会では、組合員各社に候補者について照会し提出事案を優良事例として中央畜産会に推薦した。その後、推薦事例のうち1事例が、現地確認調査等を経て最終事例発表候補4事例に選考された。発表会当日は、この事例について代表者（株式会社 松永牧場 代表取締役 松永和平 氏）によるプレゼンテーションの後、会場において審査委員による最終審査が行われ、本会の推薦事例が栄誉ある優秀賞（中央畜産会会長賞）を受賞した。

（受賞者の紹介）

株式会社 松永牧場 **代表取締役 松永和平**
経営概要 **島根県 益田市 種村町に所在**
肥育牛等約7千頭を飼養する国内有数の大規模経営体
H20年から食品残さを活用したエコフィードを牧場内で製造。強制発酵させ約40日で給餌可能となるエコフィードは、給餌プログラムに沿って管理

農水省富田飼料課長（中央）と受賞者の皆さん



松永和平代表取締役（中央）

工業会 平野専務理事（左）





松永牧場の肥育牧場団地（上空から）



エコフィードの製造は
食品残さ飼料化プラント



飼料米は粉碎してサイレーシ調整



業者が搬入する「オカラ」



業者が搬入する「果物 バナナ」



強制発酵させて約 40 日でエサの完成